

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900374		
法人名	ヒューマンライフケア		
事業所名	ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)		
所在地	京都市伏見区日野谷寺町68		
自己評価作成日	2022年6月27日	評価結果市町村受理日	令和4年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

散歩を通じて外に出て季節を感じてもらったり、下肢筋力の低下を防いだり、気分転換の要素を持つために外に出る機会を増やしています。現在は買い物にも行けないことがあったが、会社の方針として面会や買い物に行くことが少しずつ緩和されてきているので今後はもっと買い物にも出かけることが出来るようになる。食事に関してもレクリエーションの観点からお好み焼きを目の前で作ったり、串カツを好きな物を取って食べることを楽しみを持ちながら食べてもらっています。出来ることを継続して行えるようとし、洗濯物をたたむ、干す等の家事は利用者さんがされることが多いです。昼、夕食前には必ず口腔体操を行うなどして利用者さんとの関りをたくさん取るようにしています。歌が好きで毎日唄う機会を作っていると、タイトルを言われて歌が始まると利用者さん同士のつながりでレクリエーションが出来るようになっていきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2690900374-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2690900374-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和4年7月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2Fに同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念はあり、伏見独自の思いを理念として考えたものを実践している。理念を考えたのが開設時の為6年たち、職員も変わっているので新しく今いる職員で考えたいことも思っている。新しい職員が入ったときには説明をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけ外にいるときに近隣の方に挨拶をしている。毎月GH便りを作成し、前の掲示板に貼っている。それをみて連絡してくれた方もいる。8月には灯籠の絵を書きお寺で展示してくれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	建物の前の駐車場で公園体操を出来る場所を提供している。散歩に出かけることで近隣の方が利用者さんのことをだいぶ分かってくれるようになった。近所の方が施設に連れて来て困っていることの相談をしてくれた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では周りの包括の方も来られて意見をきいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告の報告や、運営推進会議の議事録は提出し、報告をしている。生活保護の方での退去されるときなども担当者で話し合いの機会を設けるなどして話している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベーターはロックがされているが、フロアは自由にしている。身体拘束に関しても行うことが無いようにしている。		

京都府 ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても年2回の研修から虐待につながらないように指導をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状制度を活用している利用者はいるが、制度をしっかりと理解しているところまでは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にしっかりと管理者からの説明をし、不明な点は聞いてもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では家族さんも少しづつ参加してもらえる機会が増え、包括職員や近隣の方と色々と話をされることが出来ていた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的に毎日が職員との意見交換が出来る環境で、改めて機会が必要な人に関しては時間を作っている。全員と管理者が話す時間は多い方だと思う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から自己評価制度が始まったのでより評価が出来るようになった。昨年度でも働きやすい環境づくりの為の話はよくしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マイスター制度があり、自分自身の知識の向上と技術習得が出来る。1年目に特化した新人研修を行っている。全体研修に関しては毎月1回行うようにして参加できる人は参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流に関しては包括やNPO法人が主宰されるZoomレクに参加している。他施設も参加されているので様子などは少しわかるが、他施設との行き来は会社として出来ない状況。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年度は新しく入られた方はおられないが入居する前に話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	昨年度は新たに入居した方はおられないが見学に来られた時から話をしっかりと本人の今の状況等は聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の現状をしっかりと聞き取りをして、今必要なことが何かを判断してサービスの提供を行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設で盛り付けや、洗濯たたみなど出来ることは継続して行ってもらえるようにしている。大掃除などでは利用者も一緒にレクリエーションの観点からしてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に本人を支えるために共に見ていくことの話をしている。本人にとって良くなるために色々な意見を言ってほしいことも伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性の継続としては家族関係が主になっている。面会や外出がなかなか出来ない状況の為、昔に住んでいた町のことなどの話をするようにしている。		

京都府 ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関りはしてもらうように支援している。一緒に何かをしたり、全体で1つのレクリエーションをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在入居中の人だが、1度ケアハウスに行かれた人が家族より相談されて再入居された方がいるのでその後の関係性も続けられるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのようにしたいかを考えるようにしている。その場の雰囲気が良い時はそれで良いと言われることが多い為、毎月の会議でも1人1人について話をしている。課題だけでなく今できていることの継続をするためにの視点も考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活をどのように過ごしていたかなどの聞き取りを行っている。レクリエーションで過去の話を開いたりして、知ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が今何が出来るかを話し合いをして、課題だけでなく出来ていることを継続するために何かを取り組むことを話している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には随時連絡をしたり、スタッフ同士では会議やモニタリングを毎月行い、話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年度は記録をケアプランに基づきケアプランに対して行ったことは数字で記載しながらケアプランへの意識を持ちながらの実践が出来ていた。何かある場合でもすぐに職員間での話し合いが行われている。		

京都府 ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設として病院受診などは家族にお願いしているが、車いすを使用している利用者は特に施設から送迎や職員が付き添いをしたり、家族との相談をしながらその人にとってしんどくならないようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	おむつなどの買い物は近隣の薬局に買い物に行っている。一緒に行けるようになれば、外出の頻度が増えてくる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々行かれていた病院への受診を家族様で行かれている方もいる。月2回の往診もみてもらっている。皮膚科も往診で来てもらえる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回2F3Fでのフロアに来られるので違う階の利用者のことでも話をし相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時でも衣類などはこちらで持って行ったりして情報を聞いている。電話での確認も双方で行っていた。骨折の入院があっても、認知症からのリハビリが出来ない方に関しては施設での生活を送ってもらいながらリハビリを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関して事業所として点滴などは出来ないことを伝え、最後までグループホームでの雰囲気を感じてもらうことや、清潔に関して伝え、家族に納得して最後を迎えられる方に関しては施設での見取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応などは夜勤を独り立ちする前に伝えるようにしている。事故発生時は随時そのタイミングで伝え、対応はしてもらっている。定期的な訓練までは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度の研修で災害時の訓練を予定している。水害などは1Fから利用者が上がってくることを想定していることは職員の認識としてはある。近隣に関しても比較的新しい建物の為、避難場所として使用できることを運営推進会議で伝えるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉についての研修後に職員間での注意できる環境を作ろうと話をしている。声の大きさも気を付けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションやおやつを何にするかなど聞いて行っていることもある。質問を投げかけることで自分で考えてもらえる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れは決まっているが、レクリエーションを何を？と聞いたり、個々で何をしたいか分からないときはその都度提案をするようにしている。個々のペースで過ごしてもらうようにはしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自分で選んでもらっていることもある。化粧をされている方もいる。季節にあった衣類の提供を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや皮むき、下膳を一緒に行ったりしている。何が食べたい？等聞いて昼食レクリエーションとして行っていることもある。洗い物に関してもしてもらったり、自分から「しよか？」と言われることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事形態で食べてもらい、水分についても記録をみて飲めていない方には促したり、介助をしている。水分量が少ない時にお茶が苦手な方はポカリやジュースを飲んでもらうようにしている。		

京都府 ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る人にも声をかけたり、できない人には介助を行っている。うがいの出来ない人はお茶やモンダミンを薄くして口腔内を清潔に保ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの間隔があいている人に関しては声をかけるようにしている。パット交換の方に関しても定期的に交換を行っている。1名リハビリパンツとパットを使用していた人がしっかりとトイレに行かれるようになり、パットを使用しなくなった。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が出ない人に関しては水分を促したりしている。医師と相談している人もいる。毎日の体操と、散歩などで運動する機会を作っている。便秘よりも下痢になられる方で下剤の調整をしている人が比較的多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回入浴をする方もおられる。声をかけても拒否がみられた人に関しても午後から入ってもらうなどしている。夏場に頭部に油がたくさん出てくる人に関して毎日入ってもらうようにしたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間にウトウトされている方は居室で休んでもらえるように声をかけたりしている。足の浮腫みがひどくなる人に関しては昼から休憩時間をとり休んでもらっている。夜間帯によく眠れるように昼間をしんどくない程度に起きて過ごしてもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診で薬の変更がある場合申し送りで全員に共有している。誤薬が無いように、1人1人名前と○後薬と口に出してから飲んでもらっている。下痢をしている人に関しても下剤を抜薬するなどの調整はしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の中での家事手伝いを自分の中の仕事として思ってくれている方もいる。誕生日会等お楽しみメニュー等をして楽しんでもらっている。散歩などで近隣へ季節の花を見てらったりしている。		



京都府 ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り散歩に出かけるようにしている。毎月1回受診で外出している人はその時に食べたいものを食べられている人もおられる。会社として買い物と一緒にいけるようになったので今後は一緒に行くことが出来る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名自分でお金の管理をされている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかってきて話をされている方もおられる。手紙などは出来ていない。携帯を持って自由にかけている人もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によつての飾り物を飾っている。廊下には利用者さんの作品を飾っている。リビングは整理して明るい雰囲気を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を考えて席を考えている。ソファで休まれたりしていることもある。席を動かれて話をされている人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、本人が使っていた家具を置いてなじみのように使われている。床に物を置くと転倒される方などはどけている。柵で手をぶつけられる人にはカバーを使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんが通りやすいようにテーブルの配置をしている。居室前には自分の作品を貼り自分の部屋と分かってもらえるようにしている。		